

総合単元名	友達 大好き	9月～11月	全7時間
めざす子ども	友達と仲良くし、助け合う子	中心項目	2—(3)
ねらい	友達の良さを感じ、仲良く活動し助け合っていこうとする態度を育てる。	関連項目	2—(2)

単元設定の理由

児童は、友達の輪が広がり、休憩時間には、声をかけあいながら楽しく遊んでいる。しかし、友達の気持ちを考えずに自分本位な行動をする児童や、同じ友達としか関わらず、友達関係を広げられない児童もいる。そこで、学級の生活を共にしながら、仲良く遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねることで、友達のよさを感じ、仲良く活動し助け合っていこうとする態度を育てたいと考え、本単元を設定した。

時期	教科・特別活動	道徳の時間	常時活動 家庭との連携	子どもの意識の深まり
9月	① 学級活動 9月(1時間) 「ともだちのいいところみつけ」 友達のいいところを見つけてことができる。	②<思いやり・親切> 2—(2) 9月(1時間) 「はしのうえのおおかみ」 くまの後ろ姿をいつまでも見ていたおおかみの気持ちを考えることを通して、相手を思いやる気持ちに気づき、身近にいる人に親切にしようとする心情を育てる。		① 友達にはそれぞれいいところがあるね。みんなも自分のいいところを見てくれているんだな。
	③ 学校行事 9月(1時間) 「社会見学」 友だちと互いに協力し合い、仲良く行動することができる。			② いじわるをしないで優しくすることが大切なんだな。
10月	⑤ 学校行事 10月(1時間) 「運動会」 友達と助け合い、励まし合いながら、運動会の練習や本番に取り組むことができる。	④<友情・助け合い> 2—(3) 9月(1時間) 「くりのみ」(本時) うさぎから2つしかないくりのみの1つをもらったときのきつねの気持ちを考えることを通して、友達を思ううさぎの気持ちに気づき、友達と仲良くし助け合おうとする心情を育てる。	(◆業間遊び) 様々な友達と関わりながら、仲良く遊ぶことができる。	③ 友達と協力し、一緒に行動して楽しかったよ。 ◆ 友達と仲良く遊べたよ。楽しかったよ。
		⑥ 学校行事 11月(1時間) 「だいじょうぶだよ」 さおりさんに「だいじょうぶだよ。」と言われたときはるかさんの気持ちを考えることを通して、友達の存在や励ましは素晴らしいものであることに気づき、友達と仲良くし、助け合おうとする態度を育てる。	(★一人一鉢) 互いに協力し合いながら、植物を育てることができる。	④ 2つしかないくりのみの1つを分けてあげたうさぎさんは優しいな。困っている人がいたら助けてあげることが大切なんだな。 ★ 毎日互いに声をかけて大切に育てたいな。
11月	⑦ 学校行事 11月(1時間) 「音楽発表会」 友達と心をつなげて音楽を創り上げ、協力しようとする気持ちをもつことができる。		(■帰りの会) 「今日のきらり」で、友達に優しくしてもらったことを発表し合い、これからも友達と仲良くしていこうとする意欲を高めることができる。	⑤ わからないところを教えてもらったよ。今度は自分が教えてあげよう。 ⑥ さおりさんは、友達思いだな。困っている友達がいたら、助け合ったり優しくしたりしていきたいな。 ⑦ 友達が教えてくれて、鍵盤ハーモニカができるようになったよ。これからも助け合っていきたいな。 ■ 友達が喜んでくれたよ。嬉しいな。これからも友達と仲良く助け合っていくよ。

友達と仲良くし、助け合う子

# 「道徳の時間」学習指導案

指導者 前田 佳保里

- 1 日時 2012年(平成24年)9月27日(木) 第5校時
- 2 学年 第1学年 男子11名 女子12名 計23名
- 3 主題名 こまっているともだちに 中心項目 2-(3) 〈友情・助け合い〉  
関連項目 2-(2) 〈思いやり・親切〉
- 4 ねらい うさぎから2つしかないくりのみの1つをもらったときのきつねの気持ちを考えることを通して、友達を思い助けようとするうさぎの気持ちに気づき、友達と仲良く助け合おうとする心情を育てる。
- 5 資料名 くりのみ (出典:「みんなのどうとく 1ねん」 学習研究社)
- 6 主題設定の理由
  - よい友達関係を築いてくためには、互いを認め合い、助け合い、理解し合いながら友情を深めていくことが大切である。困ったときに友達が助けてくれると感謝し、今度は自分が助けていこうとするものである。  
この時期の児童は、自己中心的な考えが強く、友達関係も利害損得で結びついている傾向が見られる。しかし、どの児童も、友達と仲良くしたいという気持ちも持っている。学習したり、遊んだりする中で、友達と助け合う経験を重ね、友達のよさを実感していく。だからこそ、友達と仲良く助け合おうとする気持ちをもたせたいと考え、本主題を設定した。
  - 本学級の児童は事前アンケートの結果、それぞれの肯定的評価が①「友達は大切だと思う。」が90%、②「友達が困っていたらすぐに助ける。」には86%であった。しかし、③「困っている時、友達に助けてもらったことがある。」は48%、④「友達はぼく(わたし)のことを大切にしてくれていると思う。」には71%と①や②に比べ数値が下回っている。これらのことから、自分は友達を大切に思っているが友達には大切にされていない、あるいは助けてはいるが助けてはもらっていないという思いがあることが伺える。これは、してもらった親切に気付けないままであったり、「もっと～であってほしい」「もっと～をしてほしい」など自分が友達を思いやる以上の思いやりや姿を友達に望んでいたりすることが原因だと考える。  
児童の中には、自分本位な行動で友達に迷惑を書けても謝ることができなかつたり、友達が親切なことをしてくれても素直に礼を言うことができない児童がいる。また、ともだちが親切にしてくれたことに気付けないままであることも見受けられる。
  - 本資料は、寒い北風の吹く日に食べ物を探していたきつねとうさぎが主人公の話である。きつねは、見つけたどんぐりを隠し、うさぎには何もなかったとうそをつく。うさぎは、2つ見つけたくりのみのうち、1つをきつねに渡す。そんなうさぎのやさしさにふれ、きつねは涙をぽろっとこぼすのである。きつねが流した涙の意味を考えさせることで、友達同士で仲良く助け合うことのよさに気づかせることができる資料である。  
導入では、冬の山の絵を見て、厳しい寒さの中で過ごす動物たちの様子を想像させ、資料へつなげていく。資料提示では、分割提示をすることで、きつねの思いに迫る。中心発問では、きつねが流した涙の意味を深く考えさせてねらいに迫る。手立てとして役割演技をさせ、うさぎのやさしさに触れた時の様子や心情を鮮明に感じ取らせる。その後、ワークシートを活用して見取り、意図的指名をして価値を深めたい。終末では、友達を助けた経験を出し合うことで、仲良く助け合っていこうとする気持ちを高めたい。  
学習後には、帰りの会の「今日のきらり」で友達に助けてもらったことなどを伝え合い、助け合う良さを実感させていく。  
「伝え合う」は、一人一人が自分の思いや考えをもって発表し、周りの児童はしっかりと聞くという段階である。本時では、ワークシートに書くことにより、きつねの涙の意味をじっくり考えさせる。
- 7 準備物 場面絵、お面、ワークシート

8 学習過程

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	支援(○)・評価(★)・改善点(◎)
導 入	1 冬の山で過ごす動物たちの様子を思い浮かべる。	○北風の吹く冬の山で、動物たちはどんな様子で過ごしているでしょう。 ・寒いよ。 ・食べるものがなくてお腹が減ったよ。	○冬の山の写真を提示し、動物たちの様子を想像させる。
	2 資料「くりのみ」の前段を聞き、きつねの気持ちを考える。	○きつねは、どんな気持ちで「なんにもなくて、はらぺこです。」と言ったのでしょうか。 ・どんぐりをひとりじめしたい。 ・せっかく見つけたのにあげたくないな。 ・もったいない。	○きつねのひとりじめにしたいという気持ちをつかませる。
展 開	3 資料後段を聞き、うさぎから2つしかないくりのみの1つをもらったときのきつねの気持ちを考える。	◎うさぎにくりのみをもらって涙を流すきつねは、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・うさぎさんは優しいな。ありがとう。 ・うさぎさんはぼくのことを思ってくれているんだな。 ・うさぎさんにうそをついて悪かったな。 ・自分もどんぐりをあげればよかったな。ごめんね。 ・わけてくれて、えらいなあ。 ・わけてくれて、すごいなあ。 ・今度はぼくもあげよう。	○ペアトークを取り入れ、自信をもって発表させる。 ○ワークシートに書かせ、見取つてコーディネートに生かす。 ◎ハートメーターを使い、きつねの感情を一人ひとりに表現させ、発表につなげる。
	4 自分の生活を振り返る。	[補助発問] ●うさぎはどんな気持ちできつねにくりのみをあげたのでしょうか。 ・2つあるから、1つあげよう。 ・このままでは、きつねさんが死んでしまう。 ・おなかですいているんだ。かわいそう。 ・困っているから助けてあげよう。	○把握した価値に照らし合わせ、今までの生活の中で自分自身を具体的に振り返らせる。 ★今までの自分をしっかりと見つめ、友達と仲良くし、助け合おうとする気持ちをもてたか。
終 末	5 教師の説話を聞く。	○友達が困っているときに助けてくれたことがありますか。そのとき、どんな気持ちでしたか。 ・けがをして泣いていると友達を保健室に連れて行ってくれたよ。大丈夫と聞かれて嬉しかったよ。 ・授業のとき、わからないところを教えてくれたよ。わかりやすく教えてくれて、嬉しかったよ。	○学校生活の中で、児童が助け合っていた場面について語り、今後への意欲をもたせる。
	6 振り返りをする。		○ワークシートに振り返りを書かせる。

山口指導主事より  
発問は、「どんな気持ちで隠したのでしょうか」のほうを問うほうがよ

山口指導主事より  
ありがとうと、ごめんねならごめんねから出させる。ありがとうについて、物 → 思い の順で出させる。

